



2024年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月8日

上場会社名 ラオックスホールディングス株式会社
コード番号 8202 URL <https://www.laox.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長COO (氏名) 矢野 輝治

問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理室長 (氏名) 池内 大介

TEL 03-5405-8859

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績(2024年1月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	43,026	8.5	879		899		452	
2023年12月期第3四半期	39,642	4.7	1,535		1,249		1,080	

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 434百万円 (%) 2023年12月期第3四半期 1,133百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	4.95	
2023年12月期第3四半期	11.82	

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2023年12月期第3四半期に関連する連結経営成績については、当該見直しが反映された後の金額を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2024年12月期第3四半期	40,355		21,972		54.4
2023年12月期	46,262		22,406		48.4

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 21,962百万円 2023年12月期 22,396百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期				0.00	0.00
2024年12月期					
2024年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想(2024年1月1日～2024年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	68,000	13.0	1,200	321.2	950	71.0	1,200	41.3	13.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有

新規 3 社 (社名) シャディ・グローバルフーズ株式会社、ラオックスECストア株式会社、ラオックス・ビジネスサポート株式会社、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年12月期3Q	93,335,103 株	2023年12月期	93,335,103 株
-------------	--------------	-----------	--------------

期末自己株式数

2024年12月期3Q	1,918,498 株	2023年12月期	1,918,464 株
-------------	-------------	-----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2024年12月期3Q	91,416,626 株	2023年12月期3Q	91,416,685 株
-------------	--------------	-------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断している一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第3四半期連結累計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。なお、前中間連結会計期間において行われた企業結合に係る暫定的な会計処理が前連結会計年度に確定しており、前第3四半期連結累計期間の各数値については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しが反映された後の金額によっております。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化が進んだことにより企業活動に持ち直しが見られ、大手企業を中心に雇用・所得環境の改善が先行しており、緩やかな回復が期待されております。一方で、地政学リスクの高まりや日本銀行によるマイナス金利政策解除、為替レートの変動の影響により、資源や原材料価格が高騰し、それに伴う物価上昇が続いております。これにより、景気回復や消費喚起については依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループにおきましては、経営理念「豊かで多様なライフスタイル“Global Life Style”の提案とその進化・創造の支援」の実現と、事業の再成長に向け、着実な事業戦略を進めております。ギフトソリューション事業においては、お客様のニーズに応えるPB商品の拡販や、経営効率の改善と次なる成長への基盤確立を目指して様々な施策を実施してまいりました。リテール事業においては、免税店では訪日外国人旅行者需要の増加により高額商品の消費が大きく伸びており、新規店舗も開店いたしました。一方、国内顧客を主とするアパレル店舗では、物価上昇や、季節の変わり目という影響があるなかで、新たな商品ラインの開発や店舗内での催事企画を積極的に行うなどの施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、訪日外国人旅行者需要の増加が後押しとなったものの、アパレル店舗での売上が伸びず、売上高43,026百万円（前年同期比8.5%増）、営業損失879百万円（前年同期は1,535百万円の損失）、経常損失899百万円（前年同期は1,249百万円の損失）となりました。また、アセット・サービス事業における契約損失引当金戻入額581百万円の計上により、親会社株主に帰属する四半期純損失は452百万円（前年同期は1,080百万円の利益）となりました。

(ギフトソリューション事業)

当事業セグメントにおきましては、主に贈物としての洋菓子や雑貨、生活関連用品の販売を行っております。今期は、従来の返礼ギフトに加え、カジュアルギフトマーケットに積極的に参入しており、洋菓子PB「THE SWEETS」は、初の東海エリアでのポップアップショップとして中部国際空港に出店して新規ファン層の拡大を図るとともに、各地での販売を継続してまいりました。

さらに、4月に開催した展示会『シャディEXP02024』では、2月に公開した「シャディつながるアプリ」による新規顧客の獲得と顧客接点の拡大を全国の加盟店へ発信するとともに、5月から提供を開始したポイント発行管理プラットフォーム「SDYサンクスプラス」の先行案内により地方自治体の各種事業や企業の福利厚生シーンにおける商品交換需要の獲得に向けた取り組みを進めるなど、新たな需要獲得に向けた取り組みを進めてまいりました。

一方、返礼ギフトなどフォーマルギフト市場における消費者行動の変化への対応の遅れによる減収をふまえ、商品の付加価値向上とともに価格の見直しや経費の削減などの取り組みも並行して進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、25,079百万円（前年同期比8.9%減）となり、セグメント利益は241百万円（前年同期比168.3%増）となりました。

(リテール事業)

当事業セグメントにおきましては、免税店舗では、訪日外国人旅行者の誘致と高粗利商品の拡販を進めております。また、数年ぶりとなる大型の新店舗「LAOX Grand Stage 新宿東口本店」を9月に東京・新宿にグランドオープンいたしました。コンセプトに合わせた商品とサービス、空間が一体となる専門店として、既存店舗と一線を画すスタンスの店舗となっております。また、国内顧客を主に対象とするアパレル店舗では、歴史ある高級ファッションブランドの伝統的なイメージを打破し、現代の顧客層にアピールするために商品ラインの開発を進め、お客様のニーズの変化に対応して商品構成の見直しを実施し、既存店舗の集客力の向上にも注力しております。加えて、コスト削減や在庫管理の適正化を通じて、経営効率の改善を図っております。

以上の結果、季節性の要因を受け売上が伸びず、当第3四半期連結累計期間の売上高は、16,387百万円（前年同期比88.4%増）となり、セグメント損失は201百万円（前年同期は406百万円の損失）となりました。

(トレーディング事業)

当事業セグメントにおきましては、中国国内の子会社が運営する日本料理店「くろぎ」では、『和食の心の追求』をテーマに、日本の食文化やおもてなしを広めながら、新規顧客の獲得とブランド認知の向上に注力してまい

りました。また、昨年からの中国市場の変化に対応し、事業の再編と再構築を進めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、562百万円（前年同期比77.8%減）となり、昨年からの構造改革の効果により、セグメント利益は37百万円（前年同期は159百万円の損失）となりました。

（アセット・サービス事業）

当事業セグメントにおきましては、商業施設物件の仲介業を行っており、管理している商業施設およびグループ不動産の有効活用に向けて、テナントの入れ替えや新たな業態の誘致、新規店舗物件の開拓にも取り込んでおります。また、キャッシュ・フローの改善やコスト圧縮による利益の向上にも努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、空き物件へのテナント誘致が徐々に進んだこともあり、997百万円（前年同期比13.0%増）となり、セグメント損失は158百万円（前年同期は254百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、40,355百万円（前連結会計年度末46,262百万円）となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が5,486百万円減少したことによるものであります。

（負債）

負債合計は、18,383百万円（前連結会計年度末23,855百万円）となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が3,350百万円、電子記録債務が682百万円、契約損失引当金が744百万円、流動負債その他が1,250百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

純資産合計は、21,972百万円（前連結会計年度末22,406百万円）となりました。純資産の減少は、主に、利益剰余金が452百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想（2024年8月9日公表）についての修正はありません。なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,156	10,383
受取手形及び売掛金	13,516	8,030
棚卸資産	6,737	6,955
その他	3,957	4,439
貸倒引当金	△318	△257
流動資産合計	35,050	29,552
固定資産		
有形固定資産	5,375	5,464
無形固定資産	1,072	901
投資その他の資産		
その他	8,269	7,756
貸倒引当金	△3,504	△3,332
投資その他の資産合計	4,764	4,424
固定資産合計	11,212	10,790
繰延資産	—	12
資産合計	46,262	40,355

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,363	5,013
電子記録債務	2,004	1,321
短期借入金	2,550	3,050
未払法人税等	51	38
引当金	276	297
契約損失引当金	232	41
その他	5,834	4,583
流動負債合計	19,313	14,345
固定負債		
長期借入金	192	327
引当金	150	96
契約損失引当金	809	255
退職給付に係る負債	976	904
資産除去債務	857	860
その他	1,554	1,593
固定負債合計	4,542	4,037
負債合計	23,855	18,383
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	17,652	17,652
利益剰余金	6,407	5,955
自己株式	△2,419	△2,419
株主資本合計	21,740	21,288
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	651	670
退職給付に係る調整累計額	4	4
その他の包括利益累計額合計	655	674
新株予約権	10	10
純資産合計	22,406	21,972
負債純資産合計	46,262	40,355

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	39,642	43,026
売上原価	28,353	28,765
売上総利益	11,289	14,261
販売費及び一般管理費	12,825	15,140
営業損失(△)	△1,535	△879
営業外収益		
受取利息	16	15
為替差益	294	7
貸倒引当金戻入額	64	-
その他	34	25
営業外収益合計	409	49
営業外費用		
支払利息	9	8
持分法による投資損失	29	32
地代家賃	43	-
支払手数料	-	15
その他	40	13
営業外費用合計	123	69
経常損失(△)	△1,249	△899
特別利益		
契約損失引当金戻入額	-	581
負ののれん発生益	3,855	-
その他	39	1
特別利益合計	3,895	583
特別損失		
棚卸資産評価損	436	83
契約損失	149	-
契約損失引当金繰入額	795	-
その他	201	55
特別損失合計	1,582	138
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	1,063	△455
法人税等	△17	△2
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,080	△452
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	1,080	△452

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,080	△452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	-
為替換算調整勘定	55	19
退職給付に係る調整額	△0	△0
その他の包括利益合計	52	18
四半期包括利益	1,133	△434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,133	△434

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ギフト ソリューション事業	リテール 事業	トレー ディング 事業	アセット・ サービス 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	27,534	8,695	2,529	882	39,642	—	39,642
セグメント間の内部売 上高又は振替高	85	11	10	106	213	△213	—
計	27,619	8,707	2,540	989	39,856	△213	39,642
セグメント利益又は損失 (△)	89	△406	△159	△254	△730	△805	△1,535

(注) 1 セグメント利益の調整額△805百万円には、セグメント間取引消去50百万円、各報告セグメントに分配していない全社費用△856百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間において、株式会社バーニーズジャパンの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、前連結会計年度の末日に比べ、リテール事業のセグメント資産が7,522百万円増加しております。なお、当該セグメント資産は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

リテール事業において、第2四半期連結会計期間より株式会社バーニーズジャパンの株式取得による連結子会社化に伴い、負ののれんが発生しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は3,855百万円であります。なお、当該負ののれんの金額は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。また、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ギフト ソリューション事業	リテール 事業	トレー ディング 事業	アセット・ サービス 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	25,079	16,387	562	997	43,026	-	43,026
セグメント間の内部売 上高又は振替高	171	52	15	269	508	△508	-
計	25,250	16,439	577	1,267	43,534	△508	43,026
セグメント利益又は損失 (△)	241	△201	37	△158	△80	△798	△879

(注) 1 セグメント利益の調整額△798百万円には、セグメント間取引消去7百万円、各報告セグメントに分配していない全社費用△806百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない人件費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	575百万円	591百万円
のれんの償却額	－百万円	4百万円